

# 五・七・五で描かれた情景を堪能 第22回黒羽芭蕉の里全国俳句大会

6月26日(日)、黒羽市内のホテルで「黒羽芭蕉の里全国俳句大会」が開催されました。

この大会は、松尾芭蕉の「おくのほそ道」紀行300年にあたる平成元年度に旧黒羽町で開催したことに始まり、今年度で22回目の開催となりました。

事前に募集していた兼題の部には、全国各地の718名から2344句の応募があり、大会当日の席題の部にも144名が参加して投句。参加した皆さんは、俳句づくりの腕前を競いながらも、俳句で表現されたさまざまな情景をたつぷり堪能していました。

選者には、本市ゆかりの黒田杏子先生をはじめ、各方面でご活躍中の5名の先生方をお招きして選句をしていただきました。今回受賞した作品と作者は次のとおりです。(推薦と特選のみ掲載 敬称略)

## 兼題の部

黒田 杏子 選

○推薦(栃木県知事賞)  
貧乏を笑ひ飛ばして野蒜掘る

栃木・那須 田中 思棲

○特選

田植機の夫へ差し出す三時の水  
大田原 大高 元子

二人分と言いつ、二人大根蒔く

栃木・那須烏山 久郷 紅楓

おさなき日住みし黒羽さみだるる

栃木・宇都宮 半田 里子

小檜山繁子 選

○推薦(朝日新聞社賞)

あやめ草翁は足に我は湯に

東京・品川 田中 隆

○特選

土を見て風の色みて種下す

栃木・佐野 亀山 公一

恋猫の餅のごとくに眠りをり

埼玉・さいたま 橋本 久子

西行も芭蕉も踏みし柳蔭

千葉・千葉 大久保文夫

今井 聖 選

○推薦(下野新聞社賞)

寒月や彼の喧騒の懐かしく

栃木・宇都宮 細谷 武子

○特選

ふるさとの除夜に潜みし別の間

大田原 蓮實 淳夫

食堂の鸚鵡に別れ卒業す

栃木・塩谷 斎藤 結

花見より帰れば犬の老ひてをり

神奈川・茅ヶ崎 金丸 和代

井上 弘美 選

○推薦(栃木県俳句作家協会会長賞)

しんかんと日は移りをり蝌蚪の水

新潟・長岡 岡地 蝶児

○特選

仰向けに顔剃られるて終戦日

栃木・宇都宮 大貫 瑞子

啄木忌生涯母を負はざりき

埼玉・春日部 高橋 邦夫

桑原まさ子 選

○推薦(大田原市長賞)

獵犬の音なく走る那須野原

東京・世田谷 平井あい子

○特選

万緑に朱き鳥居の火種ほど

東京・江東 段原 羊子

麦の秋叔父ひつそりと復員す

栃木・那須塩原 小林 正昭

ゴム印の弾力梅の咲き始む

東京・府中 西澤みず季



黒田杏子先生による講評

## 席題の部

黒田 杏子 選

○推薦(栃木県知事賞)  
庭先に蛍点滅母帰る

栃木・那須烏山 久郷 紅楓

○特選

あるさ出す一步の暗し螢の夜

栃木・鹿沼 沼尾 喜子

小檜山繁子 選

○推薦(朝日新聞社賞)

捕虫網まず弟を捕えたる

大田原 相澤 和子

○特選

年寄るは楽し哀しと螢呼ぶ

岩手・盛岡 二階堂光江

今井 聖 選

○推薦(下野新聞社賞)

夏木立テントのひとつから拍手

神奈川・茅ヶ崎 金丸 和代

○特選

はなしてはまたとらへては捕虫網

東京・文京 伊藤 君子

井上 弘美 選

○推薦(栃木県俳句作家協会会長賞)

ほうたるも人も去りたるのちの間

栃木・宇都宮 手塚 京子

○特選

三本にひとりづつの名捕虫網

東京・府中 田村 唯子

桑原まさ子 選

○推薦(大田原市長賞)

螢火やいまたんたんと人が好き

千葉・君津 北野 耕兵

○特選

先生の愛用品の捕虫網

栃木・矢板 林田 久子

問い合わせ

黒羽芭蕉の里全国俳句大会事務局

(文化振興課文化振興係)

☎(23)8718